

中学生連載企画 私たちの ふるさと 松山学 No.24 北中学校

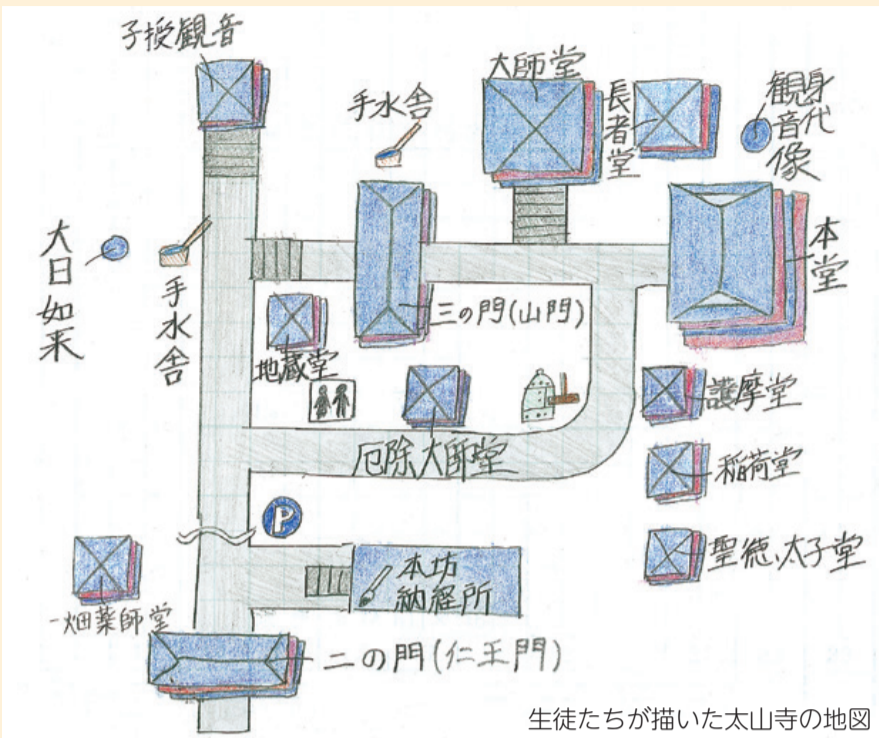
太右衛門さん

和気の北部の砂浜を開拓して開発したのが「太右衛門さん」です。砂浜を開拓するのには、自分たちは俵約をし、人々や子孫のために身を粉にして働きました。この開拓を成功させることによって、人々を水難や食糧不足から救うことができました。

太右衛門さんは、江戸時代に片岡（現在の勝岡）に移住しました。2代目太右衛門さんのときに分家し、和気浜の西浜に本家武内家として8代、東浜に分家渡部家として6代の百数十年にわたり、農業・漁業・製塩・文化の発展に貢献しました。

私たちは、和気浜を開拓し村人たちを救った太右衛門さんや、自然あふれる経ヶ森そしてたくさんの参拝客が訪れる太山寺とお接待について調べました。

身を粉にして働いた 太右衛門さんの見守る町 和気



生徒たちが描いた太山寺の地図



太右衛門公園にある頌徳碑

え、現在住宅が建ち並び和気の北の端にある太右衛門公園には「頌徳碑」が設置されています。

太山寺とお接待

太山寺は、四国八十八ヶ所第五十二番札所であり、たくさんのお遍路さんが参拝にやって来ます。

昔は交通機関が発達していなかったため、お遍路さんは「遍路宿」に泊まりながら、徒歩でお寺を巡っていたそうです。太山寺の参道には4軒ほどの民家があり、当時は全てが遍路宿でした。まわりに民家が少ないお寺では、お遍路さんを泊めることもあり、太山寺でもお遍路さんを泊めていたそうです。しかし交通機関が発達するにつれて、バ



かつてお遍路さんを泊めていた本坊

スや自家用車で参拝する人が増えたため、日帰りでの参拝客が増え、宿に宿泊する参拝客は減りました。歩き遍路の減少に伴い遍路宿は姿を消し、お遍路さんがお寺に泊まることもなくなってきたそうです。しか



真剣に必毛を取る生徒たち

し現在では、ヨーロッパなどの海外からの参拝客が増え、そのほとんどは歩いて参拝しているため、四国八十八ヶ所のお寺では再び遍路宿が必要な状況となっており、空き家を利用して遍路宿を作る取り組みをしているところもあるそうです。

また、お寺の近くの民家では、お遍路さんのために日用品や食料品を提供する「お接待」が行われています。現在、和気公民館では毎月一日にお遍路さんのお接待をしていることを知り、私たちもぜひ参加してみたいと思いました。

経ヶ森

「経ヶ森」という名前の由来は、739(天平11)年、聖武天皇の勅願により、僧の行基が十一面観音像と四天王像を安置したとき、天皇自らが写経を山頂に埋め

和気地域の歴史と人の温かさを知ることができた



前列左から、親本怜和さん(2年)、二宮涼太さん(2年)、杉内宙さん(2年)。後列左から、川端美咲さん(1年)、大東愛奈さん(1年)、菅原菜々美さん(2年)、濱田美咲さん(2年)

太右衛門さんが、勝岡という地を選んでくれたこと、勝岡の人たちを助けてくれたことを、とてもうれしく思いました。今回の学習を通して、和気地域の歴史と人の温かさを改めて知ることができました。

先人と文化の読み物教材

「語り継ぎたいふるさと松山百話」I・II・III



松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることが出来ます。